

2/13 (土)「地方創生フォーラム群馬 2021」をオンラインで初開催しました！

地方創生フォーラム 群馬 2021

2021年2月13日(土) 13:30~17:00
オンライン開催 参加費無料 (観覧100名)

コロナ禍における ICTの利活用による地方創生
～大学・企業・行政の役割と連携の可能性を探る！～

【事前登録制】参加申し込みはこちらから
パソコンからの方はこちらから
<https://forms.gio/5PbaaTUv9vPBHh39K7>

入場料は自由です。ご来場の際は感染防止対策のみの実施となりますので、お気配りをお願いします。申し込み後にURL (Zoom案内)をお知らせします。

主催 関東学園大学 地方創生研究所

後援 (予定) 総務省関東総合通信局、群馬県、太田市、太田商工会議所、上毛新聞社、群馬経済新聞社、光ネット東、県おたこコミュニティ放送、(一社)ジョブラボくんま

プログラム

- *オープニング 13:30
- *第1部 13:40～ 基調講演 「デジタル化の推進と安心なICT利用環境」
総務省関東総合通信局 局長 椿 泰文 氏
- *第2部 14:15～ 学生研究発表 関東学園大学のオンラインフォーラムの活用
取り組み事例①「新型コロナウイルスを活用したプロモーション」
②大学の体感型IT体験コンテンツ「体験価値」に由来
取り組み事例③「群馬県産品の地域活性化の取り組み」
北沼 孝幸、観光イベントの仕上げ (伊藤・さくら) 氏
- *第3部 15:10～ 「DX / ICT 活用による地方創生」太田ICT地域活性化研究会
■講演「DX時代の企業経営と地域活性化」
オンラインネットワーク東 代表取締役 助産師 地域情報化アドバイザー 森戸 裕一 氏
■討論「地方創生と企業連携」
■アウトソーシングの新たな役割「まちの発展」の視点
■都市部と地方をつなぐ新業態の可能性
■都市部から地方へ人材の送り込み
■自治体・企業連携・商工会議所の支援体制 等
- *エンディング 16:55～

お問い合わせ 関東学園大学 TEL0276-32-7800 (代表)
群馬県太田市藤岡久町200 maitory@kanto-gakuen.ac.jp

*受講者向け詳しい会場情報については、随時お知らせいたします。ご来場の際は感染防止対策のみの実施となりますので、お気配りをお願いします。申し込み後にURL (Zoom案内)をお知らせします。



関東学園大学 地方創生研究所は、毎年初春に、群馬県・太田市等と連携し、群馬県の活性化をテーマとした産学官連携によるフォーラムを開催しています。

【本フォーラムの様子が、上毛新聞さまに掲載されました】

<https://www.jomo-news.co.jp/news/gunma/society/273671>

4回目を迎えた今回は、「コロナ禍における ICT の利活用による地方創生～大学・企業・行政の役割と連携の可能性を探る！～」と題して、下記のプログラムで実施いたしました。初めてのオンライン開催となった今回は、太田市民や群馬県下のみなさまだけでなく、各地から幅広くご参加をいただき、およそ 100 名の参加者の皆様とともに、地方創生の可能性を探りました (13 時 30 分～17 時実施)。

当日のプログラムは下記のとおりです。

第 1 部では、総務省関東総合通信局局長である椿泰文氏より、「デジタル化の推進と安心な ICT 利用環境」と題した基調講演をいただきました。本学は長年にわたる ICT 環境の利

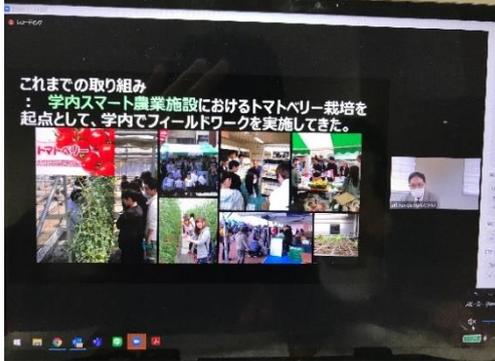
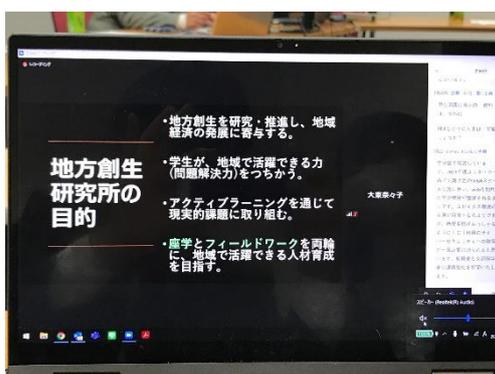
活用が評価され、このたび総務省より令和2年度「情報通信月間」関東総合通信局長表彰を受賞しました。群馬県内の大学の受賞は初めてですが、今回の基調講演はこれを記念して執り行われました。椿局長からはこれからのICT変革の動向と、新しいICT利活用環境についてお話、また参加者からの質問にもお答えいただきました。

プログラム

- * オープニング 13:30
- * 第1部 13:40～ 基調講演 「デジタル化の推進と安心なICT利用環境」
総務省関東総合通信局 局長 椿 泰文 氏
- * 第2部 14:15～ 学生研究発表 関東学園大学のオンライン&フィールドワーク
取り組み事例①「動画コンテンツを活用したプロモーション」
ぐんまの地酒 PR 動画コンテスト（島岡酒造）に出展
取り組み事例②群馬県神流町の地域活性の取り組み
民泊事業、観光イベントの立上げ（やま・さと応援隊）
- * 第3部 15:10～ 「DX / ICT 活用による地方創生」太田ICT地域活性研究会
講演「DX時代の企業経営と地域活性」
ナレッジネットワーク㈱ 代表取締役 / 総務省 地域情報化アドバイザー 森戸 裕一 氏
研究会による企業支援 / 地域活性化の取り組み
・アウトソーシングの新たな形「まちの総務」の挑戦
・都市部と地方をつなぐ創業人材の可能性
・新事業創出に向けた人材育成の取り組み
・自治体・金融機関・商工会議所の支援体制 等
- * エンディング 16:55～

第2部では、関東学園大学のオンライン教育とフィールドワークについてご紹介しました。はじめに弊学准教授の山根聡之が「ICT教育と地方創生の可能性」という観点から弊学の取り組みを紹介しました。

つづいて具体的な学生発表が行われました。まず「ぐんまの地酒 PR 動画コンテスト」に地元太田市の酒蔵「島岡酒造」をテーマに出展した地域経済デザインコース3年 中村ゼミの学生が地酒による地域活性を、つづいて、やまさと応援隊の学生チームが、民泊や観光イベントの立ち上げをテーマとした神流町の地域活性活動について紹介しました。



第3部では、太田 ICT 地域活性研究会（事務局幹事：弊学准教授 中谷淳一）による活動報告が行われました。はじめに、ナレッジネットワーク（株）代表取締役／総務省地域情報化アドバイザーの森戸裕一氏によるご講演「DX時代の企業経営と地域活性」が行われました。

つづいて同研究会会員企業のみなさまによる、DX/ICT を利活用した、さまざまな企業支援／地域活性化の取り組みをご紹介します。

- ・アウトソーシングの新たなまちの形「まちの総務」の挑戦
- ・都市部と地方をつなぐ副業人材の可能性
- ・新事業創出に向けた人材育成の取り組み ほか

ご参加いただいたみなさまからのこうした発表に対して、さらに自治体や有識者をまじえた活発な意見交換も行われました。

最後に、弊学准教授の中谷淳一、教授の中村正明より、コロナ禍における今後の ICT 利活用の可能性とありかたについて総括が行われ、本フォーラムは閉会しました。



参加者のみなさま、お忙しいところを本フォーラムにご参加くださり、ありがとうございます。今日のフォーラムの機会を今後の地域活性のための学びにいかしてまいります。

関東学園大学 地方創生研究所 一同